

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
【話すこと・聞くこと】話の順序や中心に気を付けて話したり、話し手の意見に関心をもって、自分の意見との共通点や相違点を考えたりしながら聞くことができる。	【読むこと】各段落における必要な言葉に着目し、文章全体の構成を捉え、読み取った情報から自分の考えをもつことができる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の目を見て、最後まで集中して話を聞くことに課題が見られる。ア 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く力を高めるために、話を聞く姿勢(聞き方名人)や態度の指導を徹底していく。 	通年	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話の内容を捉えて、感想を伝えたり、話をつないだりすることに課題が見られる。ア 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話を聞いて感想を伝えたり、質問したり、共感したりする機会を多く設定し、話がつながることの楽しさやよさを実感できるようにする。 	通年	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 目的を意識して話題を決め、伝え合うために必要なことを選ぶことや、相手の話の中心を捉える力に課題がある。ア 	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識、目的意識がもてるよう話し合いの前に話題を再度確認する。聞き手は、相手の意見を繰り返した上で感想を言うようにして話題を振り返られるようにする。 	通年	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見との共通点や相違点を考えながら聞き、自分の考えを深めたり広げたりすることに課題が見られる。ア 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の意見と比べて聞く」ことに対する意識付けを図り、友達の意見に付け足して発言したり、似ていても自分の言葉で発言したりする機会を、様々な場面で取り入れる。 	通年	
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の先入観や思い込みで考えてしまいがちなため、読み取る情報が十分でない場合がある。そのため、矛盾や不整合が生じ、文章全体の構成を捉えることに課題が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> まずは文章の必要な言葉に着目させ、叙述をもとに、事実としてまとめさせる。その上で自分の考えを入れて書くという手順を徹底することで、文章全体の「正しい」構成を捉えられるようにする。 	通年	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 語彙があまり豊富ではないため、文章の内容を理解することに課題が見られる。そのため、文章の構成を捉えた上で自分の考えをもつことに課題が見られる。イ 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を理解するために、音読の宿題や言葉調べを取り入れながら、語彙を増やしていく。 筆者の主張や接続詞を意識させる。また、初読の感想や学習感想、作文の時間を大切に、自分の考えを形成する時間を確保した上で、文章に書き表す活動を充実させる。 	通年	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
--	--

ロイロノートを活用して、提出箱に児童の考えを集約することで、一度に全員の考えを共有する。【個別】また、複数の児童の考えを比較しながら提示し、意図的な指名を工夫しながら、共通点・相違点について考えさせる【協働】。

児童の初発の感想から授業を構成していき、学習の流れを示し、見通しをもたせる。単元の終わりや、授業の終わりに学習感想を書き、次時や次の学習につなげる。

令和6年度 多摩市立永山小学校 授業改善推進プラン 教科名

算数

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力。基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし、統合的・発展的に考察する力。数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、目的に応じた多様な方法により意見を交流する力。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・問題解決した方法を分かりやすく表現することにまだ慣れていない。☑	・自分の考えを表したり、考えを交流し、共有したりする授業を展開する。	通年	
第2学年	・問題解決した方法を分かりやすく表現することに課題がある。☑	・説明するときには使用したい算数の用語や、式など、説明の方法について学ぶ時間を確保したり、学んだ表現を意図的に使わせたりする。	通年	
第3学年	・問題解決の方法を自分で根拠を基に説明することに課題がある。☑	・ヒントとなる図や絵を示し、説明することを意識付ける。考えを交流し、共有したりする時間を多く設ける。	通年 少人数指導	
第4学年	・問題解決ができて、根拠を説明する(記述・発表)ことに課題がある。☑	・ヒントとなる考え方を示し、図や式を用いて説明する方法を意識付ける。	通年 少人数指導時	
第5学年	・問題解決の筋道を自分の中で整理し、考えを簡潔・明瞭・的確に表現することに課題がある。☑	・途中式や計算方法を残すことを意識させるとともに、友達同士で共有の場を設けることで、様々な考え方や表現の仕方に触れられるようにする。	通年 少人数指導時	
第6学年	・問題解決をする上での知識が定着していないので、筋道を立てたり、発展的な問題を解いたりすることに課題がある。☑	・基礎・基本を徹底し、関連している内容(単元)が分かるようなヒントを示していく。	少人数指導時 通年	

--	--	--	--

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミライシードを使った復習・反復を行い、既習内容の定着を図る。【個別】 ・手で図形を操作できるようにし、何度も確認できるようにする。【個別】 ・数直線や具体物等をタブレット上で示し、具体的なイメージをもって学習内容を確認する。【協働】 ・ノートを写真に撮り、ロイロノートに提出することで、児童同士がお互いの考え方を共有したり、比較したりする。【協働】 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「問題」「類題」「まとめ」「学習感想」の流れを全校で統一することで、6年間一貫した（永山スタイル）学習の流れを構築する。 ・授業の始めに必ず「めあて」を書き、本時の見通しをもたせる指導を継続して行っていく。 ・授業の終わりに「学習感想」を書くことで、その日の課題に対する学びの深まりを実感することができるようにする。
---	---

令和6年度 多摩市立永山小学校 授業改善推進プラン 教科名

社会

社会科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
【観察・資料活用の技能】資料から内容を読み取る時に必要な情報を収集することができる。	会的事象から学習の問題を見いだして追究・解決し、社会的事象の意味を考え、適切に判断することができる。

児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	・資料を見て、必要な情報を読み取った上で自分の考えを書くことに課題が見られる。☑	・児童に身近な問題の資料を扱うとともに読み取る視点を明確にする。分かったこと・考えたことをまとめる活動を多く取り入れる。	通年
第4学年	・学んだ知識を生かして自分の考えを書くことがやや苦手である。☑ ・資料から、課題解決に結び付く内容を適切に読み取る力にやや個人差がある。☑	・体験的な活動を可能な範囲で取り入れ、社会的事象とつなげて考えさせる。 ・資料を精選し、読み取る視点を明確にして、資料から事実を読み取り、分かったこと・考えたことをまとめる活動に取り組みさせる。	通年 通年
第5学年	・必要な内容を精選した上で自分の意見を加え、再編成することに課題が見られる。☑	・読み取る視点を明確にすること、及び事実と感想を分けて考えることを意識させながら取り組みさせる。	通年

第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた資料から、課題解決のために必要な内容を精選する力に個人差が見られる。㍿ 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた資料の選び方を身に付けられるよう、授業の中で調べる時間を設け、資料から読み取ったことをまとめる機会を増やす。 	通年	
------	--	--	----	--

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
3年 タブレット端末や副読本を活用し、写真や動画等の資料を基に分かったことをまとめていく。【個別】 4年 タブレット端末や副読本を活用し、資料から収集した情報を整理し、まとめていく。【個別】 5年 タブレット端末や資料集を活用し、読み取った情報を分類・整理して話し合い、学びを深めていく。【協働】 6年 タブレット端末や資料集を活用し、調べたことを基にまとめを行い、話し合ったり発表したりして学びを深めていく。【協働】	3・4年 本時の学習の振り返りをノートに書き、学んだことを振り返る時間を設定する。単元の初めに学習の計画を立てることで、学ぶ内容と調べることについて見通しをもてるようにする。 5・6年 本時の学習の振り返りをノートに書かせ、学習問題に対してどこまで迫っているのか確かめ次時の学習課題を考える時間を設定する。単元の初めに学習の計画を立てることで、学ぶ内容と調べることについて見通しをもてるようにする。

令和6年度 多摩市立永山小学校 授業改善推進プラン 教科名

理科

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
㍿ 知識及び技能	㍿ 思考力、判断力、表現力等
実験器具を正しく扱ったり、結果を整理して適切にまとめたりすることができる。	自然事象について、問題を見いだしたり、観察や実験結果から因果関係を考えたりすることができる。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象の差異点や共通点を基に、「問題を見いだす」といった理科の考え方がもてず、教科書や先取り学習の知識でものを考える児童が多数いることに課題がある。㍿ 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの物や素朴な疑問を導入から意識させる。生活経験や体験が足りていないものに関しては導入で ICT や体験活動を取り入れる。 実験課題とその結果のまとめる方法を授業の中で考えさせる時間を設ける。 	通年	
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果についてまとめることはできるが、考察について自分の言葉で表現することに課題がある。㍿ 	<ul style="list-style-type: none"> 「実験結果から、問題に対してどのような結論を導くことができるのか」「どうしてその結論になると思ったのか」の2点について考察を記述する時間を確保していく。 	通年	

第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果と考察の差異が定着しておらず、実験が自分の仮説を検証することとつながっていない。☑ 	<ul style="list-style-type: none"> 考察の仕方のテンプレートを作成し、それを活用することで、どのように書けばよいか迷っている児童への指標とする。 	通年	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 既存の知識から仮説を立てたり、原因の説明をしたりすることが苦手である。ア 観察や実験について、見通しを立てたり、器具を適切に扱ったりすることに課題がある。☑ 	<ul style="list-style-type: none"> 問題→予想→方法→結果→考察という授業の流れを確立し定着させる。また、その中で、理科の用語や既習事項を用いて考えを表現できるよう指導していく。 観察や実験の手順を丁寧に確認しながら学習を進める。 	通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が観察した物や観察した視点が分かるようにタブレット端末で撮影し、観察したことを共有する。【協働】 タブレット端末で結果を記録し、結果の共通点や相違点などの細かい部分をいつでも見返すことができるようにする。【個別】 予想や考察などをロイロノートに提出し、互いの考えを共有したり、自分の考えの参考にしたりする。【協働】 	<p>3・4年 授業の最後にふり返りをノートやロイロノートに書き、新たな疑問や課題についての思いを一人一人がもてるようにする。</p> <p>5・6年 互いに考察の内容を共有し、物事に対する視野を広げていく。また各学年の目標に沿った振り返りをノートに書き、次の時間や単元で意識して取り組めるようにする。</p>